

理由なき一生懸命を貫く 高校生たちへ 結果よりも過程にこそ宝物がある

「僕は昭和33年生まれ。この世代にとって、コーラはやっぱり青春の味そのものなんです」。そう語るのは、宮古第一病院CEOの加藤博先生。『青春リハビリテーション』を掲げる宮古第一病院だけに、その言葉にも納得です。実際に加藤先生がお客様を迎える際にはコーラ・コーラをお出ししているとのこと。その思い入れは相当なようです。「Yes, Coke」のキャッチフレーズは忘れられないですね。それに矢沢永吉さん。かっこよかったなあ。過去のコーラ・コーラのCMを例えに交えながら、話題は徐々にスポーツの話題へと移っていきました。「スカッとさわやか」というキャッチフレーズもありましたよね。それって、スポーツにもきつと通じることだと僕は思っています」。慶応大学時代はスキークラブチーム「シヨカール」に所属、そして大学卒業後はヨットと、スポーツ歴を重ねてきたと言う加藤先生。今も岩手の社会人野球チーム・フェズント岩手のメデイカルサポートを行うなど、スポーツとは切っても切れない関係が続いています。

加藤先生がとりわけ心惹かれるのはアマチュアスポーツ。選手達の真摯に向き合う姿を見るにつけとにかく応援していきたいという気持ちになるとのこと。「スポーツって言うのは、誰でもそうですが、最初はただただ楽しいと思うからやる。そこには損得勘定とかないんです。理由のない一生懸命、



なんですよね。アマチュアスポーツにはそういう純粹なものが残っていると思います。そして、野球にしても、サッカーにしても一人の力では勝てない。「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」の精神は大和心に通じていきます」。加藤先生が唱える大和心とは、お互いが足りないものを補い合い、助け合って、高めていくという心。そういう気持ちを多くの人



コーラを手にしながら、熱いメッセージを送るCEO加藤博先生

が持つことで、世の中そのものが良くなっていると考えているそうです。

特別な思い入れがあるだけに、これからインターハイを迎える選手たちに贈るエールにも熱がこもります。「とにかく結果を考えないで、一生懸命ぶつかってほしい。結果が大事という人もいるけれど、やっぱりそこへ至るための過程の方がずっと大切です」。そして、こんな言葉で締めくくります。「スポーツで心を磨いて、仲間と絆ができて、思い出もできる。インターハイ優勝はもちろんすごいことだけれど、それ以上に打ち込んできた『過程』を何よりも大切にしてほしい。それが財産です」。いよいよインターハイが間近に迫ってきました。3年生にとっては、集大成の夏。まずはスポーツを始めた頃の気持ちを思いだして、自分の持っている力をすべて出し切ること。加藤博先生の熱いメッセージに負けないうらい、コーラ・コーラは岩手県選手を応援していきます。